

主 題：天国民らしく生きる 1
聖書箇所：テサロニケ人への手紙第一 1章

「天国民らしく生きる」、これが今日と来週のテーマです。

本来、すべてのクリスチャンは天国民らしく生きているはずですが。なぜなら、すべてのクリスチャンは天国民だからです。「天国民らしく生きる」、それはこういうことです。あたかも天国にいるかのように今日を生きるということです。では、それはどういう生き方でしょうか？それは、主を常に誉め称えている生き方です。また、主を常に礼拝している生き方です。そして、主の栄光を常に現わしている生き方です。このように生きている人、それはまさに「天国民らしく生きている」ことになるのです。思い出しませんか？私たちはこのことをこれまで何度か学んで来ました。この偉大な神に対して、このすばらしい救いをくださった神に私たちは正しく応答していきます。神を誉め称えながら、神を礼拝しながら、神を宣べ伝えながら…。私たちが天国に行ったらもう神を宣べ伝える必要はありません。しかし、この地上にあって私たちはこのような歩みが必要だとみことばは教えてくれます。あなたが救いに与っているなら、天国民なら、天国民らしく生きるようにと教えるのです。

◎なぜ、そのような生き方が必要なのでしょう？二つの理由があります。

(1) 主の存在と、その偉大さを証するため

あなたがそのような生き方をするなら、主の存在とその偉大さを証することになるからです。この世にあって私たちは、すばらしい神がいること、唯一真の神がいることを世の人々に明らかにしていくのです。その方の偉大さを明らかにするのです。でも、そのためには私たちが救われた者にふさわしく、つまり、天国民らしく生きることが必要だと言うのです。

(2) 主が与えてくださった救いがいかにすばらしいものであるかを証するため

主が与えてくださった救いがいかにすばらしいものであるかを証するために、私たちはこのように生きることが必要なのです。救われたとはどんなにすばらしいことなのか、罪赦されたとはどんなにすばらしいことなのか、救われたあなたはそれを世に証するために今日という日が与えられていることをあなたは忘れてはならないのです。

さて、このテサロニケの兄弟たちは今話したように生きていたのです。彼らは天国民らしく生きていました。つまり、彼らは神の前を正しく歩んでいました。だから、パウロはこのテサロニケの兄弟たちのことを神に感謝しています。1：2に「私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し、祈りのときにあなたがたを覚え、」とあります。彼らはそれ程すばらしい信仰者だったのです。このテサロニケの兄弟たちはそれ程すばらしいクリスチャンたちでした。ですから、私たちは彼らの生き方を見て、彼らのその歩みを見てそれを真似ることが必要です。でも、その学びをするためには、それを理解するためには、先ず、そのような歩みを生み出す信仰について学ぶことが必要です。つまり、天国民として私たちが生きていくために最も大切なカギは「信仰」だからです。もっと正確に言えば、生きた信仰です。信仰を持っている人たちは世の中に溢れています。問題はその信仰が生きているかどうかです。別の言い方をすれば、本当に間違いなく救われているかどうかということになります。ちょうど、いのちがからだを動かすように、生きている本物の信仰だけがクリスチャンにふさわしい生き方を生み出すからです。また、このようにも言えます。からだ動くことが生きていることを証明するように、天国民らしい生き方はその人のうちにいのちが存在していること、本当の生きた信仰があることの証明だと。パウロはこの信仰、この救いがどれ程偉大な力を持っているかということをよく知っていました。そして、そのことをこのみことばを通して教えています。今日は、このテサロニケ人への手紙第一から、偉大な力を持つ信仰について、私たちが天国民らしく生かしていくその信仰について見ていきたいと思えます。「本物の信仰は人を変える」ということ、また、「本物の信仰は神のみわざである」ということです。この救いを神が与えてくださったときに、確実にその人は生まれ変わります。そして、人を生まれ変わらせる神の救いは100%神からの恵みのみわざです。そのことをパウロは私たちに教えてくれます。

☆信仰＝救いについて

A. 本物の信仰は人を変える 4節

驚くことは、パウロはこのテサロニケのクリスチャンの救いに関して、一切の疑問をもっていないということです。パウロは強い確信をもっているのです。彼らは間違いなく救われているという確信です。それが1：4に記されています。「神に愛されている兄弟たち。あなたがたが神に選ばれた者であることは私

たちが知っています。」と。パウロはここで「知っています」というギリシャ語を使います。ギリシャ語には「知っている」と訳せることばが幾つかあるのですが、よく見るのは「ある知識を得た、あることを知った」というときに使うことばです。ここで使われているのは、一部ではなくて「完全に、全部知った」ということばです。パウロはいったいどこからそのような確信を得たのでしょうか？それは実際にパウロ自身がテサロニケの町で経験したからです。そして、もう一つ、パウロは多くの信仰者から彼らに関する証を聞いたのです。このテサロニケのクリスチャンたちの信仰には行ないが伴っているという証です。彼らはただ信じてそれを口にしているだけでなく、信じたことによって彼らの生き方に影響が及んでいると言うのです。

このことは、主イエス・キリストが「実」について教えられたことを彷彿とさせませんか？「木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければその実も悪しとなさい。木のよしあしはその実によって知られるからです。」とマタイ12：33に記されています。イエスが言われたことは、その木が良い木か悪い木かは木がもたらす実によって明らかだということです。良い実を实らせている木は良い木だし、悪い実を实らせている木は悪い木だと。パウロは「テサロニケのクリスチャンたちは間違いなく救われている。なぜなら、彼らの生活は良い実を实らせているからだ。」と言うのです。

このテサロニケのクリスチャンたちは、彼らが救われているという確信をパウロにもたらしたのですが、実際に、彼らの生活は変えられていました。幾つかのことが記されているのですが、その中で特に次の六つのことを見ていきましょう。パウロはテサロニケのクリスチャンたちは救われていることを目撃し、また、人々から聞いたのです。彼らは確かに救われているという確信をパウロにもたらしたこのテサロニケの人たちに起こった変化を見ていきましょう。

1. 変えられたテサロニケの兄弟たち

1) 主の模範に倣って生きる者となった 6節

6節「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。」、一つ目の変化は、彼らは「主の模範に倣って生きる者になった」ということです。これまでは自分の思い通りに、自分の考えに基づいて、自分の夢を実現させるために生きていました。ところが、彼らはイエス・キリストを信じることによって変えられたのです。主に倣って生きていこう、イエスを模範として生きていこうとなったのです。6節には「私たちと主とにならう者になりました。」とあります。不思議な書き方をしています。主に倣う者になっただけでも十分なのに、「私たち」と書かれています。でも、難しいことではありません。この「私たち」とはだれのことか？1章1節を見るとはっきりします。「パウロ、シルワノ、テモテから、」と三人の名前が上がっています。「シルワノ」は別の箇所では「シラス」と記されていますが、同じ人物です。この三人の有名な宣教師たち、テサロニケのクリスチャンたちは彼らの生き様に倣おうとしたのです。なぜなら、彼らがテサロニケの人々に福音を語ったからです。そして、福音を信じた人々は、自分たちに語ってくれたこの信仰の先輩たちの生き様に倣っていこうとしたのです。そして、後にはその宣教師たちも主の生き様に倣ったのです。テサロニケの人々もその主に倣う者になったと言うのです。

そのように考えると、信仰の先輩たち、ここにおられるすべての信仰者の皆さん、私たちは後から続いて来る人たちに模範を示す必要があります。実は、そのことが二つ目の特徴として上げられています。

2) 兄弟たちの模範となった 7節

7節「こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。」。テサロニケの人々を変えられたというのは、イエスを模範としてイエスに従って行こうとしただけでなく、彼ら自身が他のクリスチャンたちの模範になったということです。それは彼らの信仰が成長したからです。彼らを変えられて来たからです。彼らが益々主に喜ばれる者へと変えられていったからです。先程も話したように、私たちもみな例外なく、模範を示していく責任があります。家庭においても、学校、職場、教会においても、どこにおいても私たち自身が後から続いて来る若い信仰者たちに、「このように生きるのだ」ということを示す必要があるということです。

「模範を示す…、そんなことは私には無理です」と思われる方がいるかもしれません。一つだけアドバイスさせていただきます。私たちは神のみことばを見てそのみことばに従っていこうとします。私たちはクリスチャンになったからといって、また信仰歴が長いからといって、罪を犯さない者になった訳ではありません。私たちが模範を示さなくてはいけないことの一つは、私たちが罪を犯した時に、それをどのように正しく対処するかということだと思いませんか？なぜなら、多くの人たちがこのように言うからです。教会のだれかを見て「彼らは偽善者たちだ。言っていることとやっていることが違う。私たちには罪を責めるのに、自分が罪を犯した時には何もしない。」と。悲しいけれど、このような声をよく聞きます。もちろん、自分自身への戒めでもあります。皆さん、よく考えてみると、私たちが模範を示

すなら、残念ながら、現実の問題として失敗の連続です。でも、その時に私たちがどのように正しく対処して行くのか、どのように正しく罪と向き合って、それを正しく扱っていくのか？ 私たちに必要なことは、「ごめんなさい。私が間違っていた。許してください。」と、そのような罪に対する正しい対処ではないでしょうか？ 「お父さんは…、お母さんは…、違うのだ。」ではなくて、私たち自身が栄光のからだを頂くまで、葛藤を続けるこの罪との戦いに対して正しく対処していくのです。少なくとも、それによって私たちは失敗の連続ですが、後から続いて来る者たちに模範を示すことができるのです。

3) 神に仕える者となった 9 節

9 節に「私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、」とあります。テサロニケの人々は偶像に仕えていました。しかし、この救いに与った途端、彼らはこの生ける真の神に仕える者になったのです。このような変化が彼らに訪れたのです。

4) 神を喜ばせる者となった 4 : 1

4 : 1 「終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちが学んだように、また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでください。」驚きませんか、皆さん？ テサロニケのクリスチャンたちは神に喜ばれる歩みを実践していたのです。彼らには知恵があったのです。神からの知恵です。どのようにすれば神を喜ばせることができるのか、そのことを彼らは知ってそのように歩んでいたのです。私たちもそうなりたいではありませんか！ 様々な状況にあって、神がお喜びになることが何かをしっかりと判断してそれを実践していく、彼らはそのようにしていたのです。神を喜ばせる人に変えられたのです。

5) 兄弟を愛する者となった 4 : 9, 10

4 : 9, 10 に「兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。:10 実にマケドニア全土のすべての兄弟たちに対して、あなたがたはそれを実行しています。しかし、兄弟たち。あなたがたにお勧めします。どうか、さらにますますそうであってください。」と書かれています。彼らは信仰にある兄弟たちを愛したのです。キリストの愛をもって彼らを愛したと、そのような人へと彼らは変えられたのです。

6) 兄弟を励まし、徳を高める人となった 5 : 11

5 : 11 「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」、テサロニケの人々は兄弟姉妹たちを励まして彼らの信仰が成長するように努めていたのです。彼らはこのように変えられたのです。

彼らが変わったことをパウロ自身も実際に見ていたし、また、そのことを多くのクリスチャンたちから聞かされたのです。ですから、パウロは「あなたたちは間違いなく救いに与っている。なぜなら、確実にあなたたちの生活は変えられたから、生き方が変えられたからだ。」と言うのです。確かに、救いはそのような力をもっています。人を全く生まれ変わらせる力です。

2. 人を変える救いの力

1) オネシモ：目撃者 ピレモン書

オネシモはピレモンに仕えた人物です。彼は主人のところで盗みを働きましたが、神によって変えられました。非常に大切なことを教えてくれます。ピレモン書 11 節と 12 節に注意すべきことばが記されています。

(1) パウロにとって役に立つ者 11 節

11 節「彼は、前にはあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても、役に立つ者となっています。」と、このオネシモはパウロにとって役に立つ者となったと言っています。かつての救われる前のオネシモはそうではなかったのです。先ほども話したように盗みを働いた人物です。ピレモンにとっても良いしもべではなかったし、まして、パウロ自身、彼を使うことなどできない者でした。ところが、彼が救いに与ることによって、ピレモンだけでなくパウロにとっても役に立つ人物になったのです。この「オネシモ」という名前の意味は「役に立つ者」です。今までは役に立たなかったけれど、救いに与った今は役に立つ者となった。まさに、本当の意味での「オネシモ」になったのです。

(2) パウロの心そのものであった 12 節

12 節に「そのオネシモを、あなたのもとに送り返します。彼は私の心そのものです。」とあります。「私の心そのもの」と言います。つまり、パウロと同じ心を持っているということです。パウロが愛するものを愛し、パウロが憎むものを憎む、そのような人物に彼は変えられたと言うのです。もう一つ見て頂きたいのは、ここに「そのオネシモを、あなたのもとに送り返します。」とあります。オネシモはピレモンのところから逃れて来た、逃げたのです。その人物を今一度「あなたのもとに送り返す」と言ったの

です。何のためにでしょう？罪の精算をするためにです。ピレモンのところに戻って、自分の犯したその罪をきちんと精算するためにです。「もういいか、時間も経ったし…、きっと忘れていないに違いない」と、そうではなかった。オネシモはきちんと罪の精算をしようとしました。「もういいか、神様にお詫びしたし、もう赦されたから大丈夫ではないか？」ではなく、彼は損害を与えた主人のところに戻って、主人に直接謝まろうとするのです。救いはこのような変化をもたらすのです。神がその人を救われた時に、その人は新しい人へと生まれ変わります。まさに、オネシモ自身がそのように新しい人へと生まれ変わりました。ですから、オネシモは出て行って、自分の主人であったピレモンに対して「ご主人さま、どうぞお赦してください。私が間違っていました。私の罪を赦してください。」と謝罪するのです。救いはこのような働きを為すのです。

(3) パウロ自身がそのことの実験者 使徒9：17-22, 26, 29

もちろん、この手紙を書いたパウロ自身にも劇的な変化が訪れました。ダマスコに向かっていたパウロは復活の主イエス・キリストにお会いしました（使徒9：3-6）。ダマスコに行った後、アナニヤがやって来ます。そこで数日間滞在して彼は食事をして元気になったとあります。わずかに数日間しかダマスコに滞在しなかったのに、その後、パウロはダマスコの町の会堂の中で「イエスは神の子である」と宣べ伝え始めたのです。興味深いのは、このパウロのメッセージを聞いて、そこに住むユダヤ人たちがうろたえたとあります。「これを聞いた人々はみな、驚いてこう言った。「この人はエルサレムで、この御名を呼ぶ者たちを滅ぼした者ではありませんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではないのですか。：22 しかしパウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。」（使徒9：21-22）、彼らはびっくりしたのです。いったいこの人物に何が起ったのだろうか？と。クリスチャンを捕えて迫害するためにここに向かっていったはずなのに、ここにやって来たはずなのに、彼は今ここで「このイエス・キリストこそが真の神である」と、そのメッセージを伝えている、だから、ユダヤ人たちはうろたえたと言うのです。

また、このパウロはエルサレムに行こうとします。しかし、エルサレムにいる弟子たちも彼をなかなか受け入れようとはしません。そこで、バルナバが説明するのです。神がパウロの上にとつたようなみわざを為したのかと…。パウロに劇的な変化が起りました。皆、パウロを受け入れようとはしませんでした。なぜなら、クリスチャンを迫害していた人物だったからです。しかし、主が彼を全く新しい人へと造り変えたのです。キリストを迫害する者からキリストを愛する者へ、主に従う者へと神は生まれ変わらせてくださったのです。

今、私たちは、救いは人を変えようということを見て来ました。救いにはその力があると見て来ました。どうですか、皆さんは？あなたは「イエス・キリストを信じた」と言っています。あなたの生活は変わりましたか？あなたの生き方は変えられていますか？天国民として、天国民らしく私たちが生きていくためには、この救いが必要なのです。人を根底から変えるその救いが必要なのです。テサロニケのクリスチャンたちも、オネシモも、パウロも、本当の救いに与った人たちは間違いなく生き方が変わりました。問題はあなたがどうかです。みことばが私たちに教えてくれるのは、「救い」はこのような力をもったものであるということです。

B. 本物の救いは神のみわざ

どうして私たちの生き方が変わるのか？それは神のみわざです。

1. 救いは神の選びによる 4節

1：4「神に愛されている兄弟たち。あなたがたが神に選ばれた者であることは私たちが知っています。」。パウロはこのテサロニケの人たちに起つた変化を見た時に、「あなたがたは救われている、間違いなく救われている」と言いました。そのことをパウロはここで「あなたがたが神に選ばれた者である」と言っています。救いは神の選びによるということを知っているのです。クリスチャンの皆さん、あなたがよくご存じのように、神があなたを選んでくださって、今、あなたはこの救いに与っているのです。永遠に失うことのないこの救いに神は招いてくださった、それはあなたを神が選んでおられたからです。

パウロはローマ人への手紙の中でこのように言っています。「神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。」（ローマ8：33）、なぜなら、彼らは神によって義とされたから、神によって罪赦されたからです。ですから、救いは神の選びによるのです。

2. 救いは神の働きによる 5節

1：5「なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによつたのではなく、力と聖霊と強い確信とによつたからです。…」と、三つの名詞が並んでいます。「力と聖霊と確信」と言って、パウロは彼自身が、また、彼らが語つた福音のメッセージは巧みなことばによるものではなかったと言う

のです。

1) 力 使徒 1 : 8

神の御力をもって、神の御力がその福音のメッセージとともに働いたということです。イエスが弟子たちにこのように言われました。使徒 1 : 8 「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」と、それは「わたしの証人として証をするため」です。パウロたちの伝道はこの力によって為されたのです。

2) 聖霊 I コリント 2 : 4, 14

聖霊なる神が彼らの語った福音のメッセージを用いてみわざを為したのです。I コリント 2 : 4 に「そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした。」とあります。つまり、パウロは「私たちの働きはこの神の御霊と力によって為された」と言うのです。この力が必要なのです。なぜなら、救いは神のみわざだからです。神が働かなければどうにもならないのです。同じ、2 : 14 に「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。」とある通りです。

皆さんにアナニヤのことを思い出していただきたいのですが、ペテロがアナニヤのところに行くようにと導かれました。ペテロは「とんでもない。なぜユダヤ人である私が異邦人のところに行くのか？」と抵抗します。でも、神が導かれてペテロはアナニヤのところに行きました。そこで、アナニヤが、そして、家族が救いへと導かれました。ところが、ペテロが異邦人のところに出て行ったことを知ったユダヤ人たちは、そのペテロの行為を非難します。そこでペテロはこのエルサレムの教会で次のように弁明するのです、使徒 11 : 15 「そこで私が話し始めると、聖霊が、あの最初るとき私たちにお下りになったと同じように、彼らの上にもお下りになったのです。」と。自分たちの上に聖霊が下ったように、アナニヤとその家族の上にも同じように聖霊が下ったとペテロは告げました。そうすると、エルサレム教会の人たちは 11 : 18 「人々はこれを聞いて沈黙し、「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえた。」と、彼らは異邦人も私たちと同じように救われた、そして、この救いは、私たちが神から頂いたのと同じように彼らも神から頂いたと「神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになった」と言います。

救いは神のみわざです。神の働きです。聖霊なる神が人々の心を開いてこの真理を悟ることができるように働くのです。もう一度言います。「聖霊なる神はそのメッセージを聞いている人々の心に働いて、その真理を理解できるようにしてくださるのです。」、私たちはその機会を願っているのです。福音を語る時に、それを聞いているすべての人の心に起こることを願っているのです。そして、思い出すと、私たちもそのようにしてこの神の真理を知るようになったのです。

使徒の働き 2 章を見てください。今話していることがこのように記されています。ペンテコステの後、ペテロは人々にメッセージを語ります。主イエス・キリストの十字架についてメッセージを語ります。そして、主イエス・キリストの復活について語りました。そのことがここに書かれています。ペテロはこのように言います。2 : 36-37 「ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。：37 人々はこれを聞いて心を刺され、…」、ペテロのメッセージを聞いて彼らの心は刺されたのです。この「刺される」ということばは「強度の感情的心痛、苦しみを経験する、懸念や悔い」を意味します。このメッセージを聞いていた人々の間に聖霊なる神が働いて、彼らに罪を明らかに示すのです。だから、37 節のその後を見ると「ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。」とあります。なぜこんなことを言ったのでしょうか？自分たちの罪深さが明確になったからです。「私は何と大きな罪を神に対して犯したのだろう、何と恐ろしい罪を私は神に対して犯したのだろう…」と、そのことを聖霊が明らかにしてくださったのです。38 節を見てください。「そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」、このような心の変化を神ご自身がもたらしてくださったのです。

しかも、見て頂きたいのは「心を刺された」という動詞が受動態を使っていることです。神がそのようなわざを為すからです。今見ているように、聖霊なる神がそのような働きを罪人の心の中に為すのです。あなたも私もそれを体験したのです。同じメッセージを聞いていたのに、ある時そのメッセージが分かるのです。自分に語り始めるのです。

*** 聖霊なる神は罪人に働かれる**

(1) 罪を示す：自分の罪が明らかに示されます。

(2) 罪の悔い改めへと導く：自分に救いが必要であることを悟らせてくれます。

(3) 信じ受け入れるように導く：そして、主の前に罪を悔い改めてこの救いを信じ受け入れたいという思いへと主が導いてくださるのです。テサロニケ人への手紙に戻って、1章6節を見ると「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。」とあります。聖霊は罪を示し、罪の悔い改めへと導くだけでない、このすばらしい救いを信じ受け入れるようにと導かれるのです。

非常に大切なことですから、ごいっしょに見ていきましょう。

・「多くの苦難」：6節に「多くの苦難の中で、…みことばを受け入れ、」とあります。つまり、語られた福音のメッセージを信じたということです。「多くの苦難の中で、」とは「大変な圧迫、患難」という意味です。そのような中で彼らは福音を信じたということです。実は、使徒の働き17章を見ると、パウロたちがピリピへ行きました。ヨーロッパ伝道が始まったのです。そして、ピリピの町からテサロニケへと移動するのです。このテサロニケで働きを始めたときに、17：5「ところが、ねたみかられたユダヤ人は、町のならず者をかり集め、暴動を起こして町を騒がせ、またヤソンの家を襲い、ふたりを人々の前に引き出そうとして捜した。」、大変な騒ぎになったのです。この当時、パウロとシラスがそこにいました。人々は彼らを見つけ出そうとしたのですが、6－9節「:6 しかし、見つからないので、ヤソンと兄弟たちの幾人かを、町の役人たちのところへひっぱって行き、大声でこう言った。「世界中を騒がせて来た者たちが、ここにも入り込んでいます。:7 それをヤソンが家に迎え入れたのです。彼らはみな、イエスという別の王がいると言って、カイザルの詔勅にそむく行いをしているのです。」:8 こうして、それを聞いた群衆と町の役人たちとを不安に陥れた。:9 彼らは、ヤソンとそのほかの者たちから保証金を取ったうえで釈放した。」、このようにテサロニケの町で大変な騒動が起こりました。福音のメッセージを良しとしないユダヤ人たちによってこのような暴動が起こりました。人々はそれを見て「主イエスを信じるとは大変なことだ」と分かったのです。主イエスを信じるなら万事がうまくいくなどと、彼らはだれもそんなことを信じませんでした。イエス・キリストを信じるとはこのような犠牲が伴う、大変なことがつきまとうと分かっていました。そして、その上で彼らはこの福音を信じたのです。

・「聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、」：6節「聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、」、驚くべきことです。町が暴動で掻き回されている、そのような状況にあって彼らは喜びをもって福音を受け入れたのです。いったいだれが喜びをもたらしたのですか？「聖霊によって」とあります。つまり、そのような大変な状況を見ていながら、このテサロニケの人々は喜びをもってこの主イエス・キリストを受け入れようとした。そのように神は働くのです。「聖霊がそのように働いた」とパウロは言います。

・「私たちと主とにならう者になりました」

もう一つは「私たちと主とにならう者になりました」です。初めにも見たように、このテサロニケのクリスチャンたちはメッセージを語ってくれたパウロたちを模範として生きていこうと思ったし、主に喜んで従っていこうと決心をするのです。そのことがここに書かれているのですが、最後の「なりました」という動詞、これも実は受動態です。彼らは確かに決めたのです。「私たちは主イエス・キリストを信じ従って行きます」、「私たちはイエス様が生きたように歩んでいきたい。このパウロたちと同じように生きていきたい」と、その選択をしたのですが、その選択の背後にあったのは神だと言うのです。神がそのような人に変えてくださったと言うのです。

ですから、みことばが私たちに教えることは、確かに、彼らは大変な困難があることを知った上で、主イエス・キリストの救いを受け入れていきますが、そこに聖霊が働いて、彼らに喜びをもって受け入れるように導きます。そして、このように生きていきたいという決心に至ったのは、神ご自身がそのような働きを彼らのうちに為されたからだと言います。ですから、救いというのは神のみわざなのです。クリスチャンの皆さん、あなたが今救いに与り喜んでるのはすべて、神があなたをこの救いへと導いてくださったからです。あなたに罪を示し、あなたに悔い改めが必要なことを示し、この備えられたすばらしい完全な救いを信じましよう、そのように主ご自身があなたを導いてくださった、そのことをパウロはここで教えてくれているのです。

3) 強い確信

最後に、5節「…力と聖霊と強い確信とによったからです。」とパウロの福音宣教は、神の力によって、聖霊なる神の助けによって、そして、「強い確信によって」とあります。

・パウロたちは、聖霊なる神の助けをいただきながら、福音を正確に語った

全き確信のことです。彼ら自身は強い確信をもってこの働きをしたのです。この福音のメッセージだ

けが罪人を救うことができるというその確信です。使徒4：12に「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」とある通りです。イエス・キリストだけが人類に与えられた唯一の救い主なのです。その確信をもって彼らはこのメッセージを語りました。

・パウロたちは、このメッセージの真実さを行ないをもって語った

もう一つ、5節にはパウロたちの伝道の姿が書かれています。5節の後半「また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。」と、つまり、パウロたちがテサロニケの町を訪問した時に、パウロたちがどのようにそこで生活したのか、どのように彼らが行動したのかをここに記しているのです。彼らはこの大切な救いのメッセージをことばで明確に人々に伝えただけではないのです。彼らは生き方をもってそのメッセージを語ったということです。彼らは救いがどんなにすばらしいものであるかを生き方をもって示したのです。彼らは恐らく、人々の中にあって謙遜にふるまったでしょう。柔和にふるまったでしょう。人々のために一生懸命働いたでしょう。思いやりをもって接したでしょう。彼らを愛したでしょう。ときには彼らをいさめたでしょう。そして、罪を悔い改めた彼らを赦したでしょう。彼らを助けたでしょう。こうして彼らはテサロニケの町にあって福音を生きたのです。救われるとはどんなにすばらしいことかを彼らは実践で示したのです。神の愛をことばで語っただけでなく、神の愛とはどういうものなのか彼らは実践でもって示したのです。神の聖さを語るだけでない、彼らはそれを実践で示したのです。神の赦しがどんなにすばらしいものか、彼らはことばだけでなく実践で示したのです。パウロはそのことをこの5節で教えるのです。この福音だけが唯一の救いのメッセージであり、この福音によって私たちは救われ生まれ変わるのだと、そのことを彼らはことばだけでなく行ないで示したのです。そのことをパウロはここで証しているのです。

信仰者の皆さん、これが今日私たちが見ているように、天国民らしく生きることなのです。このようにして私たち信仰者は生きることができるのです。私たちも彼らと同じように生まれ変わったからです。そして、私たちを生まれ変わらせてくださった神が私たちとともにいてくださるから、私たちも彼らの歩みに倣ってこのように生きることができるのです。

皆さん、思いませんか？彼らはこのように生きてこの町で大きなインパクトをもたらしました。あなたや私も私たちの置かれているところでインパクトをもたらすことができるのです。あなたの家庭において、あなたの職場において、あなたの学校において…。そのためには、天国民であるあなたが天国民にふさわしく生きることです。そのことを神は望んでおられるし、そのために助けを与えてくださいます。少なくとも、私たちは今日その決心をもって出て行くことです。「神様、私もそのように生きていきたい。救われた者として、救いがどんなにすばしいかを人々に証する者として今日生きていきたい。神の愛が、神の赦しがどんなに偉大であるかを示す者として生きていきたい。」と…。そのようにして彼らは生きたのです。そして、神は彼らを喜び、彼らを祝し、彼らを用いたのです。同じことを神はあなたにもしてくださいます。だから、天国民らしく、それにふさわしく生きる決心をすることです。その決心をもって今日歩いていきましょう。「神様、どうぞ私を変えてください」という祈りをもって…。必ず、主は彼らに為したみわざを私たちのうちにも為してくださり、私たちを用いてくださるのです。

《考えましょう》

1. 人が救われるのは、自分の努力によるのでしょうか？
救いについてのパウロの考えを記してください。4節
2. 人が救われるために、主はどのような働きを為さるのかを記してください。
3. どうして私たちの力では、人を救うことができないのでしょうか？
4. メッセージをうまく語ることによって、罪人は救われるのでしょうか？
その理由も記してください。